

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200452		
法人名	社会福祉法人 全和会		
事業所名	グループホーム わかば	ユニット名	A棟・B棟
所在地	福岡県飯塚市太郎丸字一ツ木499番地1		
自己評価作成日	平成26年1月13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年2月17日	評価結果確定日	平成26年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔な環境で気持ちよく暮らせる様に掃除や環境整備、整理整頓に力を入れています。又四方から見える中庭を利用し季節の花を植え夏にはゴーヤで緑のカーテンを作り、涼と食を満喫しています。又、食べることが一番の楽しみなので正月料理を始としお彼岸や、お節句等の季節感のる年中行事や誕生会なども大切にしています。法人内の他の事業所との交流や合同の行事等も参加し楽しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣組に加入し、回覧板の受け渡しはもとより、総会や公民館行事、お宮の清掃、田植え前の溝掃除等に職員が参加し、地域の一員として活動や交流を行っている。また、法人代表を中心として「わかば劇団」も結成されており、福祉祭等、外部からも声がかかり、演劇を披露している。「食」の充実は、当事業所の大きな特徴でもあり、専任のシェフが配置され、食材や形態、彩りや食感等への細やかな配慮が行われ、五感で楽しめるよう食事を提供しており、好評を得ている。ゆとりある生活空間が確保され、広い中庭を中心として回廊式に2ユニットがつながり、季節ごとに花や実りを楽しめるよう豊かな環境作りが行われている。法人内や医療との密な連携を図り、市内の地域密着型連絡協議会では研修部門を担当する等、関係者との連携を広げながら、個別の暮らしの継続を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の中で理念の確認をし、共有を再認識する	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、法人理念のもとに、事業所独自の理念を掲げている。月例会議での確認や、外部評価実施が再認識の機会にもなり、職員間で共有し実践に繋げて行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として隣組に加入し町内の掃除や各行事に参加し、交流を深め、施設の行事等にも案内する	隣組に加入し、回覧板の受け渡しも行っている。町内会総会、公民館行事、お宮の清掃、田植え前の清掃等に職員が参加し、地域の一員として活動や交流を行っている。また、毎年1回のごみゼロの日には、入居者も参加し活動を行っている。法人理事長、及び職員で運営する「わかば劇団」は、福祉祭等、外部からも声がかかっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方の相談にのったり、助言したりすることもあるが、最近は入所希望の申し込みをもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、市職員や、地域福祉委員、利用者様家族の参加を頂き、アドバイス等を受け参考にさせてもらっている	運営推進会議は、家族、地域福祉委員、市職員等の出席を得て、2ヶ月に1回、定期開催されている。運営報告、行事案内等行いながら、出された意見、要望は運営に反映されて行っている。家族が固定化している為、新年度よりホーム便りの発行にて案内を行い、参加が増える事を期待されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険上のことや、サービスのことなど分からないことを尋ねたり、相談したりしている	運営推進会議には、市担当者の出席を得ており、地域密着型連絡協議会での活動も含め、日常的に相談出来る関係にある。介護保険課には3ヶ月に1回状況報告を行い、定期的な訪問も受けている。介護相談員の訪問も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間、早朝を除いて開放状態にあります又、身体拘束は行わない方向でケアに取り組んでいます	毎月の職員会議で常に現状を確認し、より良いケアの実践を心掛けている。内部研修を実施し、チームケアでの対応や拘束による弊害、気づかない内に心身の抑制につながっていないか等、職員の意識を高め、共有認識を計っている。夜間以外は玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やメディア等で報道されたことは会議の中で研修課題とし、職員に周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の勉強会に参加し、学ぶ機会を作っている また、講習会などに参加したときは資料を職員会議等で配布し、周知している	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、研修にて用いた資料を玄関受付に掲示し、職員にも伝達研修を行い、理解を深めて行っている。地域密着型連絡協議会では研修部門を担当し、成年後見制度等を取りあげている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族に契約内容、重要事項説明等を丁寧に行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に来訪された時、又は利用者様の日常の様子を報告させていただいている	家族の来訪時、意見の出し易い雰囲気作りに配慮しながら、出された意見、要望は真摯に受け止め、運営に反映させて行っている。家族との情報共有の機会として、26年度よりホーム通信を企画しており、実現が期待される。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回から2回の職員会議の中で、定例の幹部会議の決定事項や連絡を密に流し、職員の声を聴くようにしている、意見等を出しやすい形で会議を行っている。	職員会議や施設長会議を通じて、運営方針の共有や、職員意見の収集と検討が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務負担等を十分理解した上で希望公休を取り入れシフト作成を行っている また日頃の勤務評価等を行い本人の能力に応じた昇給等考慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に当たっては、性別や、学歴等の偏見等は持っておらず、福祉に対する基本姿勢を、働く意欲のある人を優先して採用している	採用にあたり、年齢や性別による制限は設けていない。定年制はあるが、状況に応じて1年更新で再雇用も可能であり、資格取得希望者には、受験料のサポートも実施されている。手話の出来る職員が能力を発揮する機会もあり、手作りゲームの得意な職員等、職員個々の能力を発揮し、生き生きとして勤務出来る様、法人代表者は支援に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育等、内部研修を、職員会議や朝礼の中で周知徹底している。	人権教育、啓発活動としての研修を、定期的に行っている。職員個々が気づいた点を話し合えるよう、職員教育を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人や若手職員を対象としたセミナー等積極的に参加する機会を作っている 又日常の勤務の中で先輩職員の指導を受けられる機会を作っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型、施設やグループホームで作る連絡協議会等に参加し、定例の部会にも出席し、同業者との交流や意見交換を行なっている。また、部会の会場は各施設持ち回りとし、視察・見学も兼ねている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所者には、施設の生活に慣れていただくため、深く関わり本人の訴えに傾聴し不安や困惑を和らげるように勤めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は、介護職員や管理者と共に、家族の話をよく聞くようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴し、本人と家族のニーズを見極めたうえでのサービス、プランへの取り組みに入る		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんでいただいたり、花壇の水遣り、食材の下準備等、できる利用者様には手伝っていただいている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り、家族にできる事をなるべくしていただき、本人との関係(絆)が損なわれることのない様に努めている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人がいつでも立ち寄られるような施設環境を作っている。面会者が来られた時ゆっくりできるように居室への案内等配慮している	信仰の継続として、教会に通うことが難しくなった方に、教会からの訪問が実現している。また、家族の協力も得ながら、法事や墓参り、正月の帰宅、行きつけの理・美容院の利用等、これまでの関係性の継続に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	自立度の低い利用者様が孤立しないように 元気な利用者様が声掛けしたり、手をさしの べたり、コミュニケーションを取ろうとされてい る姿をよく見かけます		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所を除き、家族の都合での転居等で 契約が終了した利用者様は近況報告等を家 族やご本人から受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	歩行可能な利用者様は、散歩がてら、近く のスーパーや、自動販売機まで歩いて行き、 自分のほしいものを選んで買ったりできるだ け外出の希望をかなえるようにしている	一人ひとりの日常的な会話や、家族からの情報を 基に、思いや意向の把握に努めている。困難な場 合は、本人本位で検討して行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所時に聞き取りをし、入所後も機会があれ ば既往歴や、生活パターンやサービス利用 について話を伺うようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	家族に在宅での暮らしや心身の状態を伺い 現状の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	サービス計画作成前に担当者会議を開き職 員の意見等も聞き入れながら、よりよいサー ビスが出来るように努めている	職員は担当制で、入居者一人ひとりを把握し、担当 者会議にて、入居者、家族、医師の意見を踏まえな がら話し合っている。定期的にモニタリングを 行い、現状に即した介護計画作成に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録を記入し、引継ぎの中で日勤 者から夜勤者へ、夜勤者から日勤者へと情 報を共有し、ケアや計画を見直している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院や、急変時における対応については、その時々において利用者様の状況で対応している(家族のいない方については入院時の手続きや書類上の手続きなど)		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の廃品回収や、地域行事等に参加しながら地域の人との交流を楽しんでいる		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や定期受診の支援を行い、本人の心身の状況について情報を提供したり、症状を主治医に相談したりしている	本人、家族の意向を尊重しながら、かかりつけ医への受診や協力医による定期的な訪問診療等の支援を行っている。看取りの経験もあり、常日頃より、かかりつけ医、協力医との密な連携が図られ、適切な医療が受けられるよう体制の整備に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者様の状態をチェックし、異変・異常があればすぐ看護師に報告し、適切な指示を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に、面会に行き本人の状態の把握に努め、医療関係者にも状態を尋ねている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・協力医と話し合いをし十分なケアが出来るように努めている	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を説明し、意向確認を行っている。これまでに看取りの経験もあり、家族や医師との話し合いを重ねながら、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員に配布している。また職員会議の中でも緊急時の対応について勉強している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	組織図、連絡網を作り職員に配布すると共に、年2回の消火・避難訓練を実施している。また地震時や災害時については入居者全員を玄関ホールに誘導することを確認する	年2回、避難、誘導訓練や、水消火器を用いた消火訓練を実施している。隣接するタクシー会社や、近在の同法人ケアホームとは、災害時の相互協力の了解を得ている。	夜間帯の職員が少ない体制での訓練実施を実施し、協力者との連携を確認する機会を持つ等、今後の働きかけが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関する研修等も職員会議の中で研修している。毎日の業務の中でも、尊敬の念を持ち、丁寧な接遇を心がけている	一人ひとりの気持ちを大切にし、馴れ合いでの対応や言葉かけにならない様、心掛けている。ファイル等個人情報については、事務所にて保管し、管理している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買いたい物や買う量などを出来るだけ本人の意思を尊重し、自己決定出来るように少しの助言に留めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の時間を優先しているが、居室にこもりがちな利用者様にもホールに出てきていただくよう声掛けをしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事にあわせ、本人と話し合いながら衣服や靴を決めている。 又月に1度床屋さんに来てもらい理美容も希望に合わせている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材の提供や、行事食等を大切に、提供している。又昔ながらの調理法など利用者様に教えていただくこともある	平日の昼食、夕食は、専任の調理師による食事が提供されている。食材を吟味し、食感や視覚からも食事を楽しめるよう、細やかな配慮が行われている。誕生日にはロールケーキにトッピングして祝い、散歩を兼ねてうどん店で食事をする機会もある。市内最高齢の入居者の方が、矍鑠として食事をとられている姿も拝見することが出来、「食」の充実も伝わってくる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録で摂取量を把握している。水分摂取量も注意してみている。お茶だけでなく、ジュースやコーヒー、紅茶等の嗜好品も時々提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立した利用者様は声掛け、又は見守りのケアを施行し、介助の必要な利用者様は介助ケアを行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力排泄が可能な利用者様は声掛けやトイレ誘導し、オムツの使用を減らすよう努めている	一人ひとりの状況に合わせ、プライバシーに配慮しながら、トイレでの排泄を大切に支援を行っている。排泄記録を作成し、個別の状況やパターンの把握に努め、カンファレンスにて必要な支援を見極めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の負担を軽くできるよう排便コントロールをつかみ早めの緩下剤の使用等を試みている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には本人の好みに合わせ個浴や気の合う人との組み合わせを実施し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援を行っている。	週3回、午後の時間帯での入浴を基本とし、希望や体調、状況等に応じて、無理強いとにならないよう支援を行っている。入浴後は、麦茶や紅茶を提供し、水分補給に留意している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣を大事にし、午睡や早寝の習慣は状況に応じて支援する		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は全体的に職員が行い、手のひらに載せる又は口の中に入れて呑み込みを確認する		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや調理の手伝い等機能能を低下を防げるようできる事を日々支援していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場の早朝や天気の良い日には近くのスーパーや自動販売機まで散歩がてら買い物に行く。またバスハイクや初詣、四季折々の花見に行くこともある	希望や体調、季候等に応じて、周辺への散歩は日常的に行われ、通院同行を兼ねて、買い物等の個別支援も行っている。初詣等、時節の行事や四季折々の花見も計画している。法人合同でのバスハイクは、入居者の楽しみな行事になっている	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚のある利用者様には、小遣い程度を所持してもらい、外出行事や買い物に行ったとき支払をしていただくこともある		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等に電話をかけたいときは施設の固定電話を使用していただく。また携帯電話をお持ちの利用者様には使い方を説明しています。手紙等を書かれたときはポスト投函をお手伝いしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者様にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関ホールは床暖房をしている。また中庭は夏はゴーヤで緑のカーテンを演出し、冬は寒さに強い花や豆類を植え、春先は球根の花が芽を出すように四季を通じて目で楽しんでいただけるように演出している。また居室も適温で空調管理を行っています	テーブルや椅子の置かれた広い中庭を中心として、回廊式で2ユニットが繋がっている。中庭に面して開口部が大きくとられ、明るく開放的であり、廊下はゆっくりと歩行訓練が出来る場所となっている。夏期にはゴーヤのグリーンカーテンが施される等、季節に応じた植物の生育を楽しむことが出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれに自分の居場所を見つけ気の合う方々同志の会話が飛び交っています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人一人が馴染みのあるもの、使い慣れたものを持ち込まれ、それぞれの個性に合わせてすごしていただいています	洗面台が設置された、日当たりの良い各居室には、仏壇やソファ、冷蔵庫等が持ち込まれており、居心地良く過ごせるよう、個人の居室作りとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は廻廊式になっているので、雨の日でも散歩代わりに施設内で歩行訓練や、リハビリの為の歩行訓練ができるようになっています		